



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「私たちみんなの学校だ！ー完成した校舎の引き渡し式にてー」号

2018年7月10日号 (Vol.54)

「県議会やJICAの支援で学校ができた。本当にありがとう。これからは自分たちでしっかり管理して大切に使っていきたい。」

2018年6月7日、CDCDプロジェクト第2年次の対象地域であるボンバリ県では、小学校 (Makapr community) と中学校 (Makulon Community) の校舎や関連施設の改修および新築工事が完了し、施設の引き渡し式が行われました。冒頭の言葉は、その際に学校関係者やコミュニティの人々から聞かれた言葉です。

コミュニティへの引き渡し式には、地方自治地域開発省副大臣、北部州大臣秘書、伝統的な地域リーダーであるパラマウントチーフ、教育省関係者、学校長や先生・生徒たち、対象県議会議長や職員、JICAフィールドオフィス所長ら数百人が出席しました。

副大臣はスピーチの中で“施設の維持管理や子どもたちが学校に通うことの意義、学校や地域関係者のオーナーシップ、県議会も含めた連携協力”の重要性を強調しました。議員やコミュニティの住民からも「学校はJICAや政府のものじゃない。今は自分たちのものだ。そういう意識で、誇りと責任をもって使う。」という力強い発言がありました。学校長をはじめ先生方や子どもたちも喜びの笑顔で溢れ、歌声が響き、女性住民たちのダンスもエネルギッシュでした。

エボラ流行中は学校が閉鎖され、粗末なかやぶきの屋根だけの“教室”でさえ授業を受けられない子供たちが沢山いました。これからは、学校運営管理委員会（保護者や先生、コミュニティ関係者等がメンバー）などを中心に県議会や教育セクター等と連携し、新しい校舎で子どもたちが健康で安心して学び、先生たちは教え、コミュニティも施設を有効活用でき、それが持続することが期待されています。



歌って手を振りながら、出迎えてくれた多くの生徒たちとそれを追うテレビ局取材陣



踊りながら、出迎えてくれた村の女性たち



プロジェクトで新築した小学校



スピーチをする地方自治地域開発省の副大臣



スピーチをする JICA シエラレオネ事務所の杉本所長



スピーチをする日本専門家チームの宿谷総括



テープカットをする地方自治地域開発省の副大臣



テレビ局のインタビューを受けるボンバリ県主席行政官

以上